

第41回

喜多流

青年能

芦刈 佐藤寛泰

源氏供養 谷友矩

野守 高林昌司

平成29年5月27日(土)

◆12:00開演(11:15開場)◆

十四世喜多六平太記念能楽堂

主催:公益財団法人 十四世六平太記念財団  
後援:品川区・品川区教育委員会

チケットご購入のご案内

一般4,000円(前売3,500円)/学生2,500円(前売2,000円)

発売日:平成29年2月25日(土)

インターネット 24時間対応/要事前登録(無料)

喜多能楽堂ホームページ  
<http://kita-noh.com/>  
【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン  
ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②窓口(喜多能楽堂事務局)  
クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813  
【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン  
ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送  
チケット代金を指定の郵便振替口座にお振込みください。入金確認後、チケットをお届けいたします。

③窓口(喜多能楽堂事務局)  
ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓 □ 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813  
【お受取り・お支払い】 お支払いは現金のみとなります。

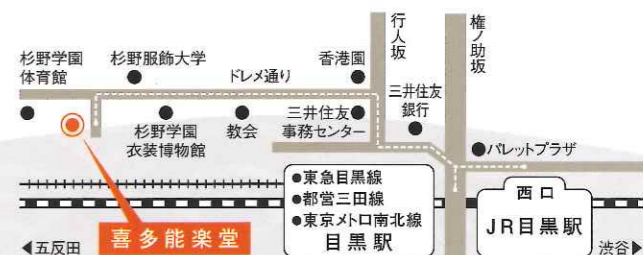
\* ご注意 \*

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー見所での飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

・各同人でもチケット受付しております。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9  
TEL 03-3491-8813



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

お客様専用駐車場はございません。お車での来館はご遠慮願います。

次回喜多流青年能予告

平成29年9月23日(土)11:15開場/12:00開演

能「敦盛」友枝雄太郎

能「龍田」狩野 祐一

能「猩々乱」佐藤 陽

ほか狂言・仕舞



番組組

仕舞

八島 金子龍晟  
東北 友枝雄太郎  
昭君 狩野祐一

谷 友矩  
大島輝久  
佐々木多門  
塩津圭介

能

シテ連(左衛門の妻) 佐藤 陽  
シテ(日下左衛門) 佐藤寛泰

芦刈

ワキ連(従者) 矢野昌平  
ワキ(従者) 福王和幸  
ワキ連(従者) 村瀬 提  
アイ(難波の里人) 前田晃一

大鼓 大倉慶乃助  
小鼓 飯富孔明

笛 藤田貴寛

後見 金子敬二郎  
粟谷浩之

狩野祐一 佐々木多門  
塩津圭介 狩野了一  
大島輝久 長島 茂  
高林昌司 内田成信

狂言

文荷

シテ(太郎冠者) 三宅右矩

アト(主人) 金田弘明  
小アド(次郎冠者) 三宅近成

休憩二十分

能

後シテ(紫式部の霊)  
前シテ(里女)

谷 友矩

源氏供養

ワキ連(従僧) 矢野昌平  
ワキ(安居院法印) 村瀬 慧  
ワキ連(従僧) 福王和幸

大鼓 原岡一之  
小鼓 森 貴史

笛 小野寺竜一

後見 友枝真也  
内田貴成

金子龍晟 大島輝久  
佐藤 陽 友枝雄人  
塩津圭介 中村邦生  
友枝雄太郎 栗谷充雄

休憩十分

能

後シテ(鬼神)  
前シテ(野守)

高林昌司

野守

ワキ(山伏) 村瀬 提  
アイ(春日の里人) 高澤祐介

大鼓 亀井洋佑  
小鼓 住駒充彦

太鼓 小寺真佐人  
笛 栗林祐輔

後見 高林呻二  
谷 友矩

金子龍晟 友枝真也  
狩野祐一 金子敬二郎  
佐藤寛泰 栗谷明生  
友枝雄太郎 内田成信

附祝言

五時半頃終了予定

芦刈(あしかり)

大阪・難波の浦に日下の左衛門という男がいた。男は暮らしが貧しかったため妻と別れて過ごしていた。その後、妻は京都にてさる貴人の乳母となり、豊かな生活を手に入れる。妻は主人から許しをもらい、夫を迎えるために難波の浦へやってくるが、里の者から、今はそのような男はいないと聞き悲しみに暮れる。

そこへ芦売りの男が現れる。男は二行に芦についてや、あたりの名所について面白く舞い語る。妻はその男に芦を差し出させるが、正にその男は探し求めていた夫であった。夫は驚いて逃げる。夫は今の落ちぶれた姿が恥ずかしいからと、藁屋に閉じこもる。しかし夫婦の変わらぬ愛を確かめ合っついに対面を果たす。

夫は二行が持ってきた烏帽子・直垂に身を改める。そして難波と夫婦の愛にまつわる和歌の伝説を披露し、再会を祝って勇壮な舞を舞う。やがて、妻と共に京都へ上っていくのであった。

源氏供養(げんじくよう)

安居院(あぐい)の法印は、日ごろから滋賀・石山寺の観音を深く信じ、足しげく通っていた。ある日、従者を伴って参拝していると女に呼び止められる。女は自分が『源氏物語』を著したが、その供養をしなかつたために成仏できないのだと述べる。石山寺へ参り、共に源氏の供養をしてほしいと頼み、自分は紫式部の亡霊であるとほめかして消え去る。

法印たちが夜もすがら石山寺に籠っていると、紫式部の亡霊が再び現れる。紫式部は法印たちと共に光源氏の跡を弔う。法印の求めに応じ『源氏物語』の巻名になぞらえながら、世の儂さを語り、舞を舞うが、やがて夜も明け去つてゆく。思えば紫式部は石山寺の観世音の化身であつて、『源氏物語』は人々に世は儂く夢のようであるといつこと伝える方便だつたのだ。

野守(のもり)

ある山伏が修行の途中、奈良・春日野へと立ち寄る。折節、野守の老人に出会つたので呼び止め、いわくありげな池について、教えてほしいと頼む。老人はこの池を野守の鏡だといふ。野守自身の影を写すがゆえに野守の鏡と、またこの野にすむ鬼神が昼は人となつてこの野を守り、その鬼神がもつ鏡ゆえに野守の鏡ともいふと、二つのいわれを語る。そして狩りで見失つた鷹を、この池を水鏡として梢にいるのを見つけたいという故事も物語る。山伏は本当の野守の鏡を見てみたいと言ふ。老人は、鬼神の鏡を見ることはとても恐ろしくて出来ないだろう、この鷹を映した水鏡を見ておきなさい、と言って塚の中へ姿を消す。

山伏は尚も真の野守の鏡を見ようと塚の前で折ると、野守の鏡を携えた鬼神が現れる。恐れをなす山伏を見た鬼神は帰ろうとするが、山伏はそれを引き留める。鬼神は山伏の願いに応じて、鏡によって天地の様々な相を写し出し、やがて大地を踏み破つて奈落の底へと帰つて行った。